

# 名古屋丸の内ロータリークラブ Nagoya Marunouchi Rotary Club Weekly Report

例会会場：名古屋クレストンホテル  
(TEL : 052-264-8000)

例会曜日：木曜日 12時30分  
クラブ会報広報委員長：黒田 覇太郎  
HP : <http://nagoya-marunouchi-rc.org/>

2023-24年度 R.I. テーマ  
会長：ゴードン R. マッキナリー

Rotary  
Club of Nagoya Marunouchi



世界に希望を生み出そう

承認  
会長  
幹事  
事務局

1995.03.28  
松尾 雄二郎  
今村 昌根  
名古屋クレストンホテル  
1007号  
名古屋市中区栄 3-29-1

TEL 052-263-1324  
FAX 052-263-0730  
E-mail [seinan1@fancy.ocn.ne.jp](mailto:seinan1@fancy.ocn.ne.jp)

松尾 雄二郎 会長 年度目標 : 親睦、親睦、そして親睦、楽しんで 30周年につなげましょう

第1233回 例会 No. 9 令和5年 9月28日 (木)

## ガバナー公式訪問 名古屋みなとRC 合同例会

■ローターソング	「それこそロータリー」
■出席報告	会員43名中28名出席
■出席率	72.50% 出席計算人数40名
■スピーカー	酒井法丈ガバナー
■ゲスト	杉浦敏夫地区幹事 河合拓真地区スタッフ

## 会長挨拶

松尾 雄二郎



皆様こんにちは。  
本日は酒井法丈ガバナー、杉浦敏夫地区幹事をお迎えして、親クラブの名古屋みなとロータリークラブの皆様と一緒に過ごすガバナー公式訪問例会です。

親クラブの柳澤会長にお願いできるのかと思っていました。順

番で今年は丸の内の私が会長挨拶をしないと聞かなくて、今日までずっと緊張してきました。

よく考えてみましたが、最近この会長挨拶に緊張するのは良いことだと思うようになりました。

それだけ、このクラブを自分は大切に考えているから緊張する、どうでもよいと思っていたら、挨拶もそれなりでいいやと考えると緊張しないだろうと思うようになりました。

幸い会長挨拶に命を賭けるという名駅の神谷パストガバナーのような厳しい先輩もおりませんが、23年前に私が最も尊敬する経営者から頂いて、色々な経営者向けセミナーで世の中ってこういう事なんです。「従業員やご子息に教えてあげてください」と使ってきたワードを、この機会に共有させていただこうと思います。

考えが変われば、行動が変わる

行動が変われば、習慣が変わる

習慣が変われば、性格が変わる

性格が変われば、人格が変わる

人格が変われば、人生が変わる

捉え方は人それぞれで構わないと思います。ここにいらっしゃる

方々は無意識に実践してきていると思います。私は再度思い起こしてみ、このワードを会員増強は難しいという考えを変えて諦めないで声をかけ続けて自分が変わって真剣であることが伝われば、皆様も変わって最後は会員が増える！！事になれば良いなと思っております。

簡単ですが、本日も一日よろしくお願いいたします。

## ニコ BOX

酒井ガバナー、杉浦地区幹事、河合地区スタッフ  
ガバナー公式訪問に参りました。

名古屋みなとRC 柳澤講次会長  
ガバナーようこそお越しくございました。  
頑張ってください。

名古屋みなとRC 藤掛誠一郎幹事  
名古屋丸の内ロータリークラブの皆さん、  
本日の設営ありがとうございます。

●本日はガバナー公式訪問です。  
ガバナー 酒井法丈様、地区幹事 杉浦敏夫様、  
地区スタッフ河合拓真様 ようこそお越しくございました。  
会員一同 歓迎いたします。  
松尾、今村、藤田、堀江亮介、黒田、杉江、森田、矢野、  
西川、高橋、古川、田島、高山、田中、高坂、佐久間、  
亀井、水野、立石、後藤、安江、河原、岩田、恵利、  
長谷川、小野 (敬称略)

本日合計75,000 円

## ガバナー卓話

第2760地区ガバナー 酒井法丈



皆さん改めましてこんにちは。ただいまご紹介いただきました豊田ロータリークラブ所属の酒井と言います。

先ほど両クラブの会長幹事の方とお話をさせていただきました

したが、非常に積極的にロータリーを取り組んでいる姿を拝聴させていただき、感心したところであります。

さてこのガバナー公式訪問という形で皆さん方にお話するにあたり、RIの方針等をクラブに生かしていくということが我々の務めであることから、RI会長のメッセージをお届けするというのがまず大きな役割であります。

今年度のRI会長は、スコットランド出身のゴードンR. マッキナリー氏であります。

今年のテーマが「世界に希望を生み出そう」=Create Hope in the World=であります。帰属意識とインクルージョンが浸透してきているから、こういうことが言えるんだということを会長は最初におっしゃっています。

そしてこの会長メッセージには平和とか幸せというワードがたくさん出てきます。

幸せというものについてですが、人に親切にしなければ幸せにはなれないということを仰っています。そして我々の奉仕プロジェクトは、積極的平和のための土壌作りだということも仰っています。この土壌作りというものは、言い換えれば、基礎作りみたいなものであります。

平和というものは夢や思うことではなく、また受身的なものでもないということ。やはりそれぞれの皆さん方一人一人が努力をしなければ、平和を勝ち得ることはできないということを言ってみえます。そして信頼を獲得し、オープンな会話というものを強調されています。

次に、「素晴らしいクラブ体験を提供できるように、クラブのリーダーが尽力すれば、より多くの会員を維持することができ、より多くの入会候補者がロータリーに関心を持ってくれます。これ以上ない居心地の良い、これ以上ない魅力的なクラブを築きあげましょう」というメッセージであります。これは魅力的なクラブは居心地がいい、居心地がいいから会員を維持することができ、また入会候補者もロータリーに関心を持ってくれる、と繋がるわけです。そしてこのロータリークラブ活動というのは、会員1人1人が自分のクラブに対する帰属意識、それをしっかり持ってもらうことが目的であり、そして、ロータリーに自分の居場所があると思えるようなクラブにする必要がある。そしてそれをやるかどうかは自分次第です。ロータリーはつまらんだとか何か言われる方もありますが、自分から何かをしているんですかということである、というふうに思います。そして会長は重点事項として三つ挙げていらっしゃいます。

一つ目が、ポリオプラスプログラム、二つ目がメンタルヘルス、三つ目が女兒のエンパワメントです。会長は、「継続と革新のバランス」ということを仰っています。続けていいものは続けていきましょう、そして新しいものにチャレンジしましょうという意味だと思っています。

その中でロータリーが最初にやらなければいけないのが、ポリオプラスプログラムであります。これは、天然痘に次ぐ人類史上2番目の疾病を根絶するということです。ロータリーがもし今ポリオから手を引いてしまったら、10年後には年間20万人の子供がポリオに感染するというわけです。そして治療法はワクチンのみというのがポリオです。2007年にポリオ根絶がロータリーの最優先事項になっています。

1985年にポリオプラスプログラムが発表されましたが、そ

のときにこのプラスをつけた意味であります。ポリオ根絶の取り組みが、子供たちの間で流行する5種類の伝染病、はしか、結核、ジフテリア、百日咳、破傷風と、この5種類の予防にも広がるだろうという意味を込めてプラスをつけました。これがポリオプラスであります。

そして二つ目のメンタルヘルス、これは今年度会長の実弟が自ら命を絶ったという経緯があり、そのことでやっぱり心のケアというのが大事ではないのかということでありませぬ。私自身は、このコロナで3年間例会がまともにできず会員同士の深まりが薄れてしまったということ、この23~24年度は感じていただいて、より会員との絆を深めたい、それが互いに支え合うことになるのではないかとこのように思っています。

三つ目の女兒のエンパワメントですが、女の子に教育ができないという環境は日本にはないわけではありますが、グローバルに物事を考えたときに、まだまだ女の子が教育を受けられないという環境は、世界にはいくつもあります。それがやはりこの世界経済の足かせになっているということです。本来持っている力を発揮できる環境を整えよう、自らの意思で行動できる社会を作ろうとすれば、家族の健康が改善される、収入が増えて貧困から脱却できる、また女性が男性と同じ就労率で働くならば、世界の総生産が増加する。当然日本においても、こういった世界の波ができれば当然、その恩恵は受けることもできるわけです。

そういうことから女兒のエンパワメントというのが必要だということに理解をします。さてここで会長のメッセージは以上としますが、ではここで会長が言っている、この希望というものは何でしょうか、ということについて皆さんにどうお伝えしようかこの年初からいろいろ考えてる中で、やっと理解できた言葉がありましたので、それを皆さんに説明しようと思えます。

聖書からの引用の言葉であります。「苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生み出す、そして希望は失望に終わることはない」ということでもあります。もう少し言葉を具体的に言うと、人というものは苦労や困難であったときに、忍耐を覚え、また我慢を覚える。そして我慢をしながら、苦難や困難に立ち向かっていけば、やがてそれが練達の域に達することができる。そして熟練や達人の域の境地に達したときにこそ、希望が見えてくる。希望というものは最初からあるものではないのです。

我々がその奉仕プロジェクトを一生懸命やったとしたその先に、希望というものが見えてくるということ。希望があって奉仕をするわけではありません。

奉仕をして努力をした先に、やっとこの希望が見えてくるということを皆さんに伝えたかったのです。ではここでちょっと話を変えて、皆さんの心の中での考え方にちょっと問いかけをさせていただこうと思えます。

①なぜ皆さんロータリークラブに入ったんですか。

誘われたから。奉仕の機会を探していた。ロータリーに入りたかったから。

②ロータリークラブの会員とはどういう人ですか。

自ら従事している職業が所在する地域社会の中で役に立ち、且つ、為になるものとなるよう、日々研鑽努力している人たち。→人間力を磨き上げている

③ロータリークラブとはどういうことをして何をしていますか。

すか。

上記のような人々が交流することによりお互いの研鑽を行う場として例会を開催している。また、その人達が一体となり、地域社会・世界が必要とする事に応える活動を行っている。

④なぜロータリークラブの会員であり続けるのですか。

理念と指針、あるいは活動が自らの価値観と一致している。→ **居心地がいい**

⑤あなたのクラブを代表する活動は何ですか

実施してきた「よいこと」を、会員歴の長短に関わらず共有し語り合う機会を設けてみるのが望まれる。

こういうことを意識してほしいということで、問いかけをさせていただきました。

ロータリーには、「**ビジョン声明**」というものがあります。これに上記の問いかけが当てはまり次のようになります。

### **ビジョン達成のための行動計画（優先事項）**

#### **より大きなインパクトをもたらす**

ポリオを根絶し、残された資産を活用する。

ロータリーのプログラムおよびロータリーが提供する体験に焦点を当てる。活動成果を挙げて、それを測る能力を高める。→⑤あなたのクラブを代表する活動は何ですか？

地域社会や世界で変化をもたらすために、新たな方法を探りましょう

#### **参加者の基盤を広げる**

会員基盤と参加者の基盤を広げ多様化し、ロータリーへの新しい経路を創り出す。開放性とアピール力を高め、活動成果とブランドに対する認知を築く。→①なぜロータリークラブに入会しましたか？②ロータリークラブの会員とはどのような人達ですか？

共有する人達が一緒に活動できるよう、繋がりと機会をつくり出そう

#### **参加者の積極的なかわりを促す**

クラブが会員の積極的な参加を促せるよう支援する。参加者中心のアプローチを開発し、新たな機会を提供するリーダーシップ育成およびスキル研修の機会を提供する。→

③ロータリークラブはどのような事をしているのですか？

地域社会のニーズを知り、応える活動を実行することを誓いましょう

#### **適応力を高める**

研究、革新、および進んでリスクを負うことへの意思を奨励する文化を築く。構造・プロセスを合理化し、意思決定における、より多様な考え方を育むためにガバナンスを見直す。→④なぜロータリークラブ会員であり続けているのですか？

日常では得ることができない、価値観・事象に触れることによって、自らが職業やロータリーを持続可能な存在として磨き上げられます。

これは2017年に発表されたのですが、私達は世界で、地域社会で、そして自分自身の中で持続可能な良い変化を生むために、人々が手を取り合って行動する世界を目指しています。そしてさらにその10年前、2007年に「中核的価値観」というのが発表されています。我々はこの中核的価値観がロータリーの基本のように感じて過ごしてきましたが、今はこの「**ビジョン声明**」が、ロータリーの優先事項です。ロータリーが目指す姿というものがここにありま

す。そしてそれを達成するための行動計画です。

そして、このより大きなインパクトとは何かということですが、ロータリーが提供する体験に焦点を当てる、活動成果を上げてそれを測る能力を高める、ということに私は注目しました。測る能力を高めるというのは、我々がやった奉仕プロジェクトについて、よかったのか悪かったのか、来年もやるのかやめるのか。そういうことをクラブの中で検討しているのかどうか、ということです。ロータリーはその辺がちよっと下手ですよ。1年ずつで、事業年度が変わってってしまうということもあるかもしれませんが。しかし、我々が今年度やったプログラムがよかったのか悪かったのかということをはかることがちよっと下手で、もっとざっくばらんに言えば、やりっ放しなんです。それではインパクトをもたらすことができないということを中心に、私は皆さんに伝えたいと思います。そして、参加者の基盤を広げるためには、やはり新しい経路というものが重要だと。積極的な関わりを促すには、参加者中心のアプローチが大事ではないかと。どうしてもロータリーは、いろんな企画をするにしても、自分たちの都合のいい時間、都合のいい場所、というものをまず先に考えてしまいます。参加する人の参加しやすい場所とか時間とか日にちっていうものは、あまり考えられていません。やはりそうではなくて、参加者の目線に立つことが大事ではないのかということだと思います。そして、適応力というものはどういうものかと言えば、このリスクを負うことの意味を奨励する文化。ロータリーは、リスクを極力避けたいがります。そんなことしても意味ないからやめとこうかと。面倒くさいからやめとこうかと。誰も賛同してくれないからやめとこうかと。こういう姉妹クラブと提携したいけど、続けられないからやめとこうかと、みんなこういう発想です。

でも、やはりそのようなリスクというものを文化として奨励していかなければならないということでもあります。そしてより多くの、より多様な考えを生むためのガバナンスを見直す。ガバナンスというものは、管理体制とか管理とかそういう意味であります。やはり根本から作り直しましょうということでもあります。

そして昨年から言われていることに、DEIがあります。ダイバーシティ（多様性）にエクイティ（公平さ）、インクルージョン、3つの頭文字をとってDEIと言っています。この多様性とは何かと言えばいろんな人をロータリーは歓迎しますよっていうことなのですが、これは昔からあるんです。先ほど述べた2007年の中核的価値観にも多様性というのが入っています。だから今に始まったことではない。そして公平さ、色々な公平な扱いと機会の均等ということを行っています。これも四つのテストにあります。『みんなに公平かどうか。』常にそういう唱えています。これも目新しいものではありません。しかし、この世代やジェンダーを超えた関係性を見いだせるかどうかが大それたことなんですね。年の差があろうが、やはり同じ価値観を持っていきましょうということでもあります。

そしてインクルージョン。ロータリーにあらゆる人を歓迎して存在価値を作っていこうということでもあります。これも今に始まったことではありません。感覚ではなくて、実際の現行に生かすことが望まれると、四つのテストで最初に言っています。『現行はこれに照らしてから。』

さて、私の本年度テーマとしてプライドやブランドというものを挙げさせていただきましたが、それに至るまでの話をちょっと話をさせていただきます。20~30年前に入会したときは、ロータリーとは親睦と奉仕が大事である。それぞれうまくバランスとってこうというようなことを言われました。その親睦とは何か。やはり良質な会員同士が触れ合って自己改善を重ねて奉仕の心を熟成し、それを実践するための事項改善だということであり、これが親睦であります。飲み食いをすることが目的ではありません。そして奉仕、他者への働きかけのように見えて、実は自分との戦いであり、結果として心の豊かさが与えられる。自分を磨いて心を豊かにするのが、親睦と奉仕であります。これは別のもではなく同じこと、両輪ではなく一つの大きな輪っかではないのか私は思います。そして自ら成長する機会を得て、奉仕から心の豊かさを使えることこそが、ロータリーの魅力ではないのか。ロータリー会員であれば、心が豊かになる。自分が成長できるという、会員であるだけで、成長する機会が得られて、心が豊かになるのです。そんないい団体は他にはない、ということが魅力だということです。だから、このプライドが大事だと思うのです。ロータリー会員である誇り、また自分のクラブに対する帰属意識、これがプライドになります。そしてブランドとはクラブであります、会員1人1人が自分の居場所があると思えるようなクラブになることこそが、クラブのブランド力を上げるということです。このことが、私が伝えなかったことでもあります。最後をお願いしていきます。まず、財団への年次寄付1人150ドルとポリオプラス寄付人30ドルという目標達成をお願いしたいと思っております。そしてこの財団寄付というものは、地区補助金とグローバル補助金に使われています。昨年度当地区では150ドル目標に対して149ドル少し足りませんでした。ポリオは30ドルに対して39ドルという形で達成できている。ぜひとも今年は両方とも達成をしたいということを皆さんにお願いをしています。二つ目ですが、地区大会を11月の11、10日に開催します。今年は豊田東ロータリークラブがホスト役となって、皆さんをお迎えます。ぜひとも多くの会員にお集まりいただきたいということでもあります。そして三つ目のお願いですが、今年まで続けてきましたWFFというワールドフードふれあいフェスタが、来年11年目を迎えますので、名称をロータリーフードフェスティバル(RFF)に変更しました。チケット購入と企業協賛のお願いはまたガバナー補佐の方から、各クラブにお願いすると思いますが、ぜひとも積極的な参加協力をしていただきたい。今年コンセプトとして「公共イメージを上げましょう。ポリオフاندレイジングしましょう。そしてロータリーファミリーとの絆を深めましょう」ということでもあります。

最後に、シンガポールでの世界大会が来年5月に行われます。その際に地区を挙げて皆さんと一緒にシンガポールの夜を楽しみたいということで、ガバナーナイトを開催します。ぜひ、多くの方がこのガバナーナイトに参加いただきたいことを最後をお願いしておきます。

以上をもちまして本日の卓話とさせていただきます。お付き合いいただきましたことを改めて感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

## 閉会の言葉



**名古屋みなとRC会長 柳澤 講次**  
 ガバナー本当にありがとうございました。こんなにガバナーを身近に感じることは、今までなかったです。話は非常に難しい話ですけども、今日のこのガバナーの笑顔を思い浮かべて、また研鑽に励みたいと思います。本日はありがとうございました。合同例会を閉会いたします。

## 会長・幹事懇談会

名古屋クレストンホテル9F 『デイト』11:30~  
 出席者 酒井法丈ガバナー、杉浦敏夫地区幹事、  
 名古屋みなとRC 会長 柳澤講次、幹事 藤掛誠一郎  
 名古屋丸の内RC 会長 松尾雄二郎、幹事 今村昌根



例会に先立ち、酒井ガバナー、藤掛地区幹事と2RCの会長・幹事による懇談会が行われ、貴重なアドバイスとご指導を頂きました。

## 第27回米山学友会(愛知)総会

日時 9月21日(木) 18時~  
 場所 ホテルメルパルク名古屋

会場であいさつされるドテイニャットさん



## 今後の例会予定

10月5日(木)「米山月間卓話」  
 10月12日(木) 休会  
 10月19日(木) 例会変更「秋の観劇家族会」